

老人ホームの慰問をはじめて5年になりました

私が主宰する「蓮生会」では東日本大震災の時、熊本大震災の時も少しでも被災地の復興に役立てて頂きたいとの思いから、募金活動をしました。また東日本大震災の時は、会のメンバーが現地を訪問して仏画の寄贈をしながらの慰問もしました。

老人ホームの慰問はこのように 何か世のお役に立つことはないか、との思いから2013年から始めました。仏画の塗り絵です。塗り絵は手先を動かす事と少しの頭脳の働きを要することからボケ防止にはなるのではと思います。

前準備として、優しい或いはかわいい絵柄を選び参加人数分の色紙に線描きをします。また、仕上がった作品を持って帰って直ぐに飾れるように色紙掛けも人数分用意します。

私とアシスタントを伴って訪問しています。老人ホームのイベントでは、バンドの演奏とかマジックなど聴衆や観衆としての参加者は大勢ですが、塗り絵や折り紙など参加型のイベントは参加者が少ないです。仏画の塗り絵も当初は3～4名でしたが、回を重ねる毎に好評で最近では7～8名の参加者があります。また、老人ホームでは「仏画」という言葉からの響きも良くないのでは、と思い「癒しの塗り絵」ということ改めました。

参加者の中には、90歳を超えた方で以前に水彩画などを描いていたと言う方も居られて、ちょっと指導するだけで綺麗に仕上げられて喜んで下さいましたが、少し手が動き難いとか少し目が見にくい、ちょっと耳が遠いなどの人も居られて、こんな方には私達がもの凄くお手伝いをして仕上げてもらいます。仕上がった作品は皆さん大変喜んで頂き、また、次も参加したいとの声を頂いています。

絵柄は毎回替えています。老人ホームの参加者の持続度とか集中程度を考慮すると時間は40分以内、色数は5～6色までとしています。作品の出来栄はいろいろですがそれも個性、出来るだけ達成感を味わってもらえるよう心掛けています。これからも老人ホームの皆さんが楽しんで、喜んで頂けるよう「癒しの塗り絵」を続けて行きたいと思っています。

合掌

2017. 4. 8

西浦道顯